

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114112626		
法人名	医療法人美生会 釧路第一病院		
事業所名	グループホーム さくら苑(1階)		
所在地	釧路市鳥取大通4丁目10番8号		
自己評価作成日	令和元年7月2日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0114112626-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0114112626-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、医療機関が運営法人となっており、グループホームが出来る事を考え、職員の協力を得ながら、医療機関から支援を受ける体制を整備している事が、家族の不安を取り除き、安心に繋がっている。  
 管理者と職員の関係も良く、相互の意思疎通を図りながら、利用者本位の生活とケアを目指している。居室には、トイレや流し台を備えている等、プライバシーが守られ、家族の来苑時にも、気兼ねなく過ごせるようになってる。  
 事業所に閉じこもる事なく、家族に協力を得ながら積極的に外出を支援し、家族との絆を大切にしている。又、医療面、健康面、安全面等で、利用者が不安なく過ごせるよう、努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は国道38号(鳥取大通)に近い市街地に立地し、隣接して同法人が運営する「グループホームさくら苑2」と国道に面して「釧路第一病院」があり、医療と介護の連携をしながら運営しており、合同で運営推進会議や災害訓練等を行い事例を共有して質の高いケアに努めている。共有空間の居間は広くゆったりと日差しも入り明るく、居室にはトイレがあるため個人のプライバシーも守られており、職員は利用者の想いを把握し、家族と利用者の絆を大事にしながらその時々にあった支援を行い、利用者は穏やかに暮らしている。管理者と職員の関係も良好でアットホームの雰囲気のもと、利用者も明るく笑顔を見せており、家族も安心している。町内会に加入し地域の一員として、廃品回収に協力したり、新年会や地域行事に参加し、散歩の時には地域住民と挨拶を交し、庭の花を頂いたりして地域と交流している。利用者の健康面では定期検診(年4回)や往診等があり、重度化や終末期については早い段階から利用者、家族と話し合いを持ち、事業所の出来る支援を説明している。看取りについて家族は、母体病院での希望が多く、病院との連携体制を整えており、利用者、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々職員が理念を意識し、生活の中で実現可能な目標をケアプランに盛り込み、支援を行っている。	事業所独自の理念を玄関エレベーター横に掲示している。年度目標を掲げて理念と共に共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、苑の行事に町内会の方達を招待する等、相互交流が深まるような取り組みを行っている。	町内会に加入し、新年会や町内会行事に参加する等地域交流を深めている。また、事業所行事に地域住民を招待するなど日常的な交流が出来るように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所にお住いの方々と共に生活していけるよう、町内会の行事、作業に参加し、認知度は定着している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容を報告する事を通じ、出席された委員の方達から有益な情報を頂いたり、逆にこちら側から提案を行う等の活発な意見交換により、サービスの質の向上に繋げている。	年6回開催し、隣接するさくら苑2と合同で行っている。地域包括支援センター職員、民生委員、家族等が参加して活動報告や利用者の生活状況等を報告しながら意見交換を行い、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や、地域包括支援センターと連携を密に取り、困難事例の対応について、助言、支援を頂く等、良好な関係を築いている。	市担当者には、ホーム長が出向き、困難事例の対応についての助言や支援を貰い協力関係を築いている。また、管理者や職員は要介護更新申請などで訪問し、運営状況、利用者の状況などを報告し、意見交換、指導、情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の確認や事例検討を行い、その内容を各ユニット毎の会議において全職員に伝える等、周知徹底を図っている。	外部研修に参加したり内部研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を開催して、身体拘束の確認や事例検討を行い全職員に周知徹底している。契約時に書面で拘束に関し明示説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、日常の業務の際に、虐待の防止に向けての話し合いを行ったり、研修に参加する等して知識を深め、予防に努めている。		

グループホーム さくら苑(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用するのが望ましいと思われる利用者について、御家族に情報を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等に入居者の権利、義務をわかりやすく明記している。又、入居時に十分な時間をかけ説明し、同意を得ている。(医療体制についても万全)		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者が苦情、意見を言えるよう多くの職員が利用者に関わるようにしている。家族が来苑した際には近況報告をし、改善点、意見等が無いか出来る限り伺うようにしている。	利用者の状況確認や家族からの聞き取りに力を入れて、意見、要望を把握するよう努めている。特に、家族が面会に来た際に、利用者の情報、要望等を聞き取りしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等を通じ、職員は常に意見、提案を言うようにしている。	管理者は日常業務の中や毎月の職員会議を通じて、様々な提言や提案なども積極的に取り上げて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を設定してもらい、達成出来たかモニタリングする事で、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の案内を周知し、自ら選択出来るように参加を促している。又、職場内でも研修に組み込み、必要な知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	釧路地区のグループホーム協議会に入会し、同協議会の開催する研修、勉強会に参加している。		

グループホーム さくら苑(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や御家族の話を傾聴し、本人の思い、要望等を伺い、一日も早く生活に慣れ、安心した生活を送って頂けるよう、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望や不安な事等を十分に傾聴し、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際に、状態を十分にヒアリングし、グループホームも含め、どの施設、サービスが合っているか、どの様に手続きするか等、わかりやすく説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳を持って接するようにし、コミュニケーションを通じ、共に生活するものとして主体的に生活出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が必要不可欠な事を常に話し、家族面会時には、本人の状態、様子を報告し、主体的に関わって頂ける環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前、或いは、入居後についても、家族や友人、知人等と、面会や、手紙、電話等を通して、関係が途切れない様、支援している。	友人・知人との交流が継続して維持できるよう支援している。馴染みの美容室や買い物に行ったり、家族等の協力により墓参したり、自宅へ行く等、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、出来る事をお互いが支え合える関係が持てるよう支援している。他のユニットの利用者ともレクリエーション等を通して交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後についても、必要に応じて御本人の状態を伺い、手続き等、必要な支援があれば、相談、代行をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、要望を汲み取るよう、心掛けています。意思を表出しづらい利用者については、本人はもちろん、家族や友人等を通して、情報の収集に努めている。	日常の暮らしの中や散歩・入浴時等の何気ない「つぶやく」一言や会話が、貴重な意向として職員で共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろんの事、家族や友人、近所の方や担当していたケアマネージャー等から入居前や入居後においても話を伺い、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や意向等を尊重しながら、QOLやADLの向上に繋がるよう、支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や友人、知人、医療関係者、或いは、以前担当していたケアマネージャー等から情報を集め、介護計画を作成している。	家族や利用者の意向を反映させ、モニタリングや会議で出た意見を基に、介護計画を作成し家族の同意を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成して家族の署名捺印を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき等を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元の商店や、町内会、地域の同業のサービス事業者等と連携を深め、サービスの開拓、発見に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のフォーマル、インフォーマルな資源の把握、発見に努め、生活、行動範囲が広がるよう、取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先の医師、病院の看護職員とは、日々の健康管理について情報交換し、適切なアドバイスを受けている。又、必要に応じ、いつでも往診を受けられる体制になっている。	これまでのかかりつけ医を大事にしながら、母体法人の医師や看護師が往診や健康管理を行っている。また、母体病院と情報交換等バックアップ体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に提携医療機関の看護師や職場内看護師と相談、連携を密に取り、受診や往診、訪問看護等に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、医療機関との情報交換を密に行っている。又、系列病院で開催している会議に参加したり、定期的に、医師、看護師等と意見交換を行う等、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には、早期に医師や看護師、家族、本人等と相談し、出来るところ迄必要な支援を行っている。	入居時に利用者と家族に重度化した時の指針を説明し同意を得ている。看取り経験を踏まえ、日頃より利用者や家族の希望に添えるよう職員や医師、看護師等のチームワークを構築して、その心構えを養って行く様努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2度程講師を招き、講習会を実施したり、研修に参加する等や事例を通して、知識と実践力の習得に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、避難方法の確認に努めている。 又、市主催の避難訓練に参加し、課題の抽出、解決に向けて、意見交換を行っている。	年2回消防署の指導を受け避難訓練を行っている。避難路の確認、消火訓練等を利用者と一緒に行っている。釧路市主催の避難訓練にも参加して意見交換だけでなく定期的訓練にも反映させている。	国内では想定外の災害が発生しており、これからは「複合災害」も予測される。「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引き(改訂版)令和元年7月北海道保健福祉部」を参考に計画等の策定や備蓄品の見直しを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導、失禁対応、汚物処理は、他の入居者に気付かれないよう配慮している。	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払っている。トイレ誘導や入浴時など、プライバシーを損ねないように優しく接している。失禁等の対応も利用者の尊厳を守るように言葉掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の表出が困難な利用者についても、生活歴や家族からの聴取、本人の反応等から推察し、支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活習慣、意向を汲みながら、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ行ったり、一緒に店へ行って好みの衣類を選んでもらう等、各々の要望に添える様支援している。		

グループホーム さくら苑(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の日課として、個人の出来る事を把握し、準備や片付けをして頂いている。行事等では、おやつ作りと一緒にやっている。	母体病院の管理栄養士が献立を作成しているが、週2回は利用者の希望を把握しながら献立を作っている。食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。おやつ作りは皆と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、栄養バランスを考慮して立てている。必要に応じ、食事量、水分量の記入を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々の状態に応じて、歯科医師や歯科衛生士と連携の下、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合わせてトイレ内に手すりを設置する等、出来るだけ自力で排泄出来る環境を作ったり、本人の見えないところでの汚物回収、臭いの軽減に努めている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。各居室にトイレが設置され、利用者が容易に自立排泄できるよう工夫している。オムツや紙パンツなどを工夫しながら支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量の把握に努め、乳製品等便秘の解消に効果のある飲食物の提供や、離床、運動の支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間やタイミングで入浴して頂ける様、配慮している。又、各々の入浴の習慣(洗う順番や浴槽に浸かる時間等)をアセスメントし、快適に入浴して頂ける様支援している。	利用者の体調や希望に合わせて入浴できるように取り組んでいる。入浴を好まない利用者への対応については、家族と相談し工夫をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して、夜間良眠出来る環境を整えたり、眠れない時でも一緒に寄り添い、安心出来る環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方された定期薬や臨時薬を個別にわかりやすく管理し、作用や副作用についても理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や散歩、針仕事、外食等、各々の利用者の趣味、嗜好に合った活動をしている。		

グループホーム さくら苑(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩、地域の行事、墓参りや、自宅への外泊、外出等、地域や家族の協力を仰ぎながら、実現出来るよう、取り組んでいる。	利用者の希望に沿って買い物や散歩に行ったり、地域の行事に参加したりしている。自宅への外泊や外食、墓参りは家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて、自己管理、又は職員管理にしている。自己管理が出来ない方には、支払い時に一緒に行く等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人、知人等との関わりが疎遠とならないよう、定期的に電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビング、玄関等に季節の草花を飾ったり、飾りつけを利用者と一緒に行う等、居心地のいい環境作りに努めている。	居間は明るく広くてゆったりとし、利用者が居室に籠ることなくそれぞれが好きな場所で、職員と共に飾り物を作って壁に貼っている。観葉植物に水をやりたりウッドデッキには小学校から貰ったトマト等を植えて水やりしながら居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いたり、和室、長椅子を設ける等、談話、交流がしやすい場所を複数用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使用していた家具等を持ち込んでいる。思い出の品、大切にしている物等、家族と相談しながら、持ち込めるよう支援している。	居室にはトイレ・ベット・クローゼット・洗面台等が設置されており、入居時に利用者は家族と相談しながら馴染みの家具・布団・身の回りの品等を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場等には、入居者の状態に合わせて、要所に手すりを設置している。又、本人の行動に合わせて家具を配置したり、活動性を維持する為の歩行器等を取り入れている。		